

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年2月28日

関東運輸局

評価対象事業名: 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	地方運輸局等における二次評価結果	備考
							評価結果	
埼玉県生活交通確保対策地域協議会	国際興業株式会社	系統:飯03-2系統 運行区間: [起点]飯能駅 [主な経由地]名栗車庫 [終点]名郷	目標達成継続に向けて飯能市と協調し、地域住民や観光客を取り込むよう生産性向上の施策を中心に取り組みを行ったが、新型コロナウイルス感染症の影響による引き続き高齢者の出控えによる高齢者定期券の販売不調及びノーラ名栗のイベントが一部中止となった。	B	C	輸送人員について、事業対象期間(令和4年度)の目標278,014人に対して実績232,080人であり、目標を下回った。(目標比▲45,934人、前年度比▲56,922人)要因としては、令和3年4月より輸送人員の集計方法を券種別実績比に変更したことによるもの。	・新型コロナウイルス感染症の状況を見ながらではあるが、生産性向上の施策を中心に沿線自治体である飯能市と連携をとり取り組みを行い収支率の向上を図る。	・事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施されている。 ・目標・効果達成状況の未達成の要因として、新型コロナウイルス感染症の影響であることが確認できる。 ・関係自治体と連携し、観光客を含めた交流人口の活性化に努めたことは評価できる。 ・広域な交通ネットワークの構築には、都県や市町村との日常的な連携が非常に重要であり、また、ICカードシステム等により得られる利用実態等のデータの利活用により路線の再編やダイヤの見直し等を検討を図り、地域にあった交通サービスとなるよう改善を図っていただくことを期待する。
	朝日自動車株式会社	系統:五霞町役場～幸手駅 運行区間: [起点]五霞町役場 [主な経由地]桜まつり会場(まつり開催時) [終点]幸手駅	①②新型コロナウイルス感染症の影響により桜まつりが中止となったため未実施となった。 ③新型コロナウイルス感染症の影響により五霞町イベントが中止・延期となりバスの乗り方教室は未実施となった。 ④令和4年8月22日にダイヤ改正を実施した。 ⑤高齢者定期券導入については継続して検討中。	B	A	輸送人員目標43,743人に対して実績は50,636人となり目標を達成した。 達成理由として、新型コロナウイルス感染症により離れていた利用者が回復基調にあること、桜まつりは中止となったが、権現堂の桜や紫陽花等の観覧を目的とした観光利用者の増加が理由と考えられる。	・桜まつり開催時は渋滞が発生するため、関係各所と連携しバスの定時性確保を図り利用増に繋げる。 ・バスの乗り方教室を実施し需要の掘り起しを図る。 ・利用実態に合わせたダイヤ改正の実施。 ・高齢者定期券を検討し高齢者のバス利用へ繋げる。 ・新たな生活道路開通に伴う新ルートの検討。 ・引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を実施し安心して利用できるバス車内の環境保持に努める。	・事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施されている。 ・目標・効果達成状況については、概ね目標を達成しており評価できる。結果の要因を分析し、需要動向や事業の実施状況の把握に務めること。 ・「企画乗車券」や「高齢者定期券」の導入の検討にあたっては、利用者の動向やニーズ等の把握に努めた上で、進めていくことが望ましい。 ・広域な交通ネットワークの構築には、都県や市町村との日常的な連携が非常に重要であり、また、ICカードシステム等により得られる利用実態等のデータの利活用により路線の再編やダイヤの見直し等を検討を図り、地域にあった交通サービスとなるよう改善を図っていただくことを期待する。
	朝日自動車株式会社	系統:本庄駅南口～児玉折返し場・赤城乳業千本さくら工場 運行区間: [起点]本庄駅南口 [主な経由地]蛭川 [終点]児玉折返し場・赤城乳業千本さくら工場	①令和3年9月～10月と令和4年3月～4月の共通学生フリーバス販売時期に合わせ沿線学校や、自社ホームページ及びバス車内で周知し、販売促進を図った。 ②赤城乳業のHPIに交通手段を掲載し、工場見学者の利用を促進した。 ③高齢者定期券導入については継続して検討中。	A	C	輸送人員目標164,232人に対して実績は159,837人となり目標未達成となった。 未達成理由として、新型コロナウイルス感染症の影響からは回復基調にあるが未だ回復途上であること、赤城乳業の工場見学者が長引いたことにより利用者が戻り切っていないこと、また、沿線高校の生徒数減少が理由と考えられる。	・引き続き共通学生フリーバスの販売促進を図る。 ・赤城乳業工場見学者へのPR活動を実施。 ・高齢者定期券を検討し高齢者のバス利用へ繋げる。 ・引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を実施し安心して利用できるバス車内の環境保持に努める。	
	朝日自動車株式会社	系統:宮本町車庫～児玉折返し場・赤城乳業千本さくら工場 運行区間: [起点]宮本町車庫 [主な経由地]本庄駅南口 [終点]児玉折返し場・赤城乳業千本さくら工場	①令和3年9月～10月と令和4年3月～4月の共通学生フリーバス販売時期に合わせ沿線学校や、自社ホームページ及びバス車内で周知し、販売促進を図った。 ②赤城乳業のHPIに交通手段を掲載し、工場見学者の利用を促進した。 ③高齢者定期券導入については継続して検討中。	A	C	輸送人員目標55,918人に対して実績は47,474人となり目標未達成となった。 未達成理由として、新型コロナウイルス感染症の影響からは回復基調にあるが未だ回復途上であること、赤城乳業の工場見学者が長引いたことにより利用者が戻り切っていないこと、また、沿線高校の生徒数減少が理由と考えられる。	・引き続き共通学生フリーバスの販売促進を図る。 ・赤城乳業工場見学者へのPR活動を実施。 ・高齢者定期券を検討し高齢者のバス利用へ繋げる。 ・引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を実施し安心して利用できるバス車内の環境保持に努める。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	地方運輸局等における	備考
							二次評価結果 評価結果	
埼玉県生活交通確保対策地域協議会	朝日自動車株式会社	系統:本庄駅南口～神泉総合支所 運行区間: [起点]本庄駅南口 [主な経由地]小島南・沖電気前 [終点]神泉総合支所	①令和3年9月～10月と令和4年3月～4月の共通学生フリーパス販売時期に合わせ沿線学校や、自社ホームページ及びバス車内で周知し、販売促進を図った。 ②沿線施設との企画乗車券導入に向けての協議は新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し見送った。 ③高齢者定期券導入については継続して検討中。	B	C	輸送人員目標125,016人に対して実績は140,459人となり目標を達成した。 達成理由として、新型コロナウイルス感染症により離れていた利用者が回復基調にあることが理由と考えられる。	・引き続き共通学生フリーパスの販売促進を図る。 ・沿線施設との企画乗車券を導入し観光需要を取込む。 ・高齢者定期券を検討し高齢者のバス利用へ繋げる。 ・引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を実施し安心して利用できるバス車内の環境保持に努める。	
	イーグルバス株式会社	系統:W01 運行区間: [起点]小川町駅 [主な経由地]和紙の里 [終点]白石車庫	前年の事業評価結果に基づき、引き続き沿線行事・イベントの参加者や公共交通会議委員、沿線町村職員への路線バス利用喚起を自治体と連携し実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の警戒による行事・イベントの中止や縮小開催と云ったことから、計画した取り組みのほとんどを実施することができなかった。	B	A	輸送人員の目標37,179人に対して実績は38,312人となった。 達成の要因は、外出規制の緩和に伴い、ハイキング旅客の増加があった。	・事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施されている。 ・目標・効果達成状況については、目標を達成しており評価できる。結果の要因を分析し、需要動向や事業の実施状況の把握に努めること。 ・アフターコロナにおける利用状況等の検証を行うとともに、関係市町村と連携し、地域のニーズと合った運行計画の策定や引き続き効果的な利用促進策が期待されることから進めていくことが望ましい。 ・広域な交通ネットワークの構築には、都県や市町村との日常的な連携が非常に重要であり、また、ICカードシステム等により得られる利用実態等のデータの利活用により路線の再編やダイヤの見直し等を検討を図り、地域にあった交通サービスとなるよう改善を図っていただくことを期待する。	
	イーグルバス株式会社	系統:W02 運行区間: [起点]小川町駅 [主な経由地]パトリアおがわ [終点]和紙の里	前年の事業評価結果に基づき、引き続き沿線行事・イベントの参加者や公共交通会議委員、沿線町村職員への路線バス利用喚起を自治体と連携し実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の警戒による行事・イベントの中止や縮小開催と云ったことから、計画した取り組みのほとんどを実施することができなかった。	B	A	輸送人員の目標17,863人に対して実績は20,147人となった。 達成の要因は、外出規制の緩和に伴い、ハイキング旅客の増加があった。	・事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施されている。 ・目標・効果達成状況については、目標を達成しており評価できる。結果の要因を分析し、需要動向や事業の実施状況の把握に努めること。 ・アフターコロナにおける利用状況等の検証を行うとともに、関係市町村と連携し、地域のニーズと合った運行計画の策定や引き続き効果的な利用促進策が期待されることから進めていくことが望ましい。 ・広域な交通ネットワークの構築には、都県や市町村との日常的な連携が非常に重要であり、また、ICカードシステム等により得られる利用実態等のデータの利活用により路線の再編やダイヤの見直し等を検討を図り、地域にあった交通サービスとなるよう改善を図っていただくことを期待する。	
	国際十王交通株式会社	系統:熊谷駅北口～犬塚 運行区間: [起点]熊谷駅 [主な経由地]南河原支所 [終点]犬塚	・共通学生フリーパス(定期券)、スクラムバス(高齢者定期券)発売時期に合わせて自社ホームページ及びバス車内で周知し、販売促進を図った。 ・行田市立南河原小学校でバス乗り方教室を実施した。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により南河原ふれあい祭りが中止となった。	A	A	輸送人員目標128,794人に対して実績138,306人となり、目標を上回った。 要因としては新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者が大きく減少していたが、感染者の減少等による利用者増が考えられる。	・事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施されている。 ・目標・効果達成状況については、目標を達成しており評価できる。結果の要因を分析し、需要動向や事業の実施状況の把握に努めること。 ・アフターコロナにおける利用状況等の検証を行うとともに、関係市町村と連携し、地域のニーズと合った運行計画の策定や引き続き効果的な利用促進策が期待されることから進めていくことが望ましい。 ・広域な交通ネットワークの構築には、都県や市町村との日常的な連携が非常に重要であり、また、ICカードシステム等により得られる利用実態等のデータの利活用により路線の再編やダイヤの見直し等を検討を図り、地域にあった交通サービスとなるよう改善を図っていただくことを期待する。	

第三者委員会における各委員からの意見

令和4年度地域公共交通確保維持改善事業第三者評価委員会における委員による以下の助言は、今後の取組を行う上で必要な観点であり、考慮されたい。

- お出かけの様式の変化について、新しい行動パターンに対応する交通システムについても、今後積極的に仕掛けることが重要。
- ポイントは、「データ」や「デジタル化」であるが、デジタル化するだけで課題や問題点が解決するわけではないため、都県や市町村との日常的なコミュニケーションや議論が重要。